

《秋をめぐる》

11月の週末。庭掃除を放り出し車にとび乗る。まずは近くの山へ。春には桜の名所。山頂近くの変化にしばらく来ていないことに気づく。余りの見事さに勢いついて御坂峠の旧道へ。通常はトンネルでひと超えの所を、沢山のカーブをまわり、更に山頂からは厚い落ち葉を踏みしめて歩く。鳥と風の動きを感じながら木株に腰を下ろしていると、身辺のことに気を取られ、忙しく動きまわり、頭の中の狭いスペースもぎっさり、の自分がこっけいでもあり、もの哀しくも感じてくる。ここは眼下に河口湖が広がる。が、夜の御坂道は月光の中で凄みさえあり、まさにマーラーのアダージョの世界。お勧めです。



《青山展 夜ヴァージョン?》



～ペンダントが見えなくて残念でもお人柄どおり、知的でシックでした～

いつもの楽しい青山展でした。今回は日頃何かと気を使ってくださるマネージャーさんに敬意を表して、夜のアンクルハットを楽しみました。夜景も素敵でしたが、彼、お勧めのシングルモルトウイスキーの燻のようなスモークの香りが衝撃でした。青山展は時間を延長して、夕方にワインをお出しするのは如何?とのスタッフの案に、またまたアソビが昂じそうでコワイ。

《個性の時代到来か、NYジュエリーショーII Tokyo Jewelers 掲載》

柏書店松原発行の[Tokyo Jewelers] 第41号に続いて、2006年1月末日発行 第43号に島田節子の上記記事が掲載されます。書店にてお求めになれます。ご一読下さい。

《よりスタイリッシュになるには》

ごらんの通り私の作品はユニークな形と加工をしています。初めて作品を見た人は“宇宙と未来を感じる”そうです。私はパワフルで楽しいのが好きなのですが、でもそういうのを見て、人は“変わっている”と言う。NYでそのユニークさを誉められたばかりなのに、日本でそう云われるとちょっと???

でもジュエリーは身につけるといふ実用面をクリアしないといけない。使いやすい、重すぎないetc.

私の個展では見るだけの方が必ずいらっしゃいます。職業も眼も多様。彼らはじっくりじっくりと見る。その怖いこと!“買わない人は、見ちゃダメ!”と軽口たたきつつも内心は感謝。

“シマダさんのはいつもブレがない”と言う反面“大分変わってきた”。これがコワイ。どう変わったのか?

ユニークでありながらより洗練されたスタイルにどう近づくか。

《Flag of Liberty》

～ハートのピンクサファイアの
 トーチを掲げた自由の旗
 威厳の中に優しさが～



使用素材
 ブルーパール (オーストラリア)
 ピンクサファイア エメラルド
 バライバトルマリン ダイア
 K18YG K18WG

《オープンアトリエ》

10月に仕事場を移しました。庭を挟んで住まいの中に。古い日本家屋ですが気に入ってます。この1室にゲストルームを作ろうと計画。小さい家なのでアトリエも客間もごっちゃになりそう。でも今まで遠路いらして下さる方々に狭くて窮屈なのと比べると、心地よく気持ちよい空間になりそうです。

来春には皆様をお迎えできる予定ですので、お楽しみに!

《NYショーご一行様と“リバーダンス”で再会》



～ダンスの素晴らしさに
 脚だけちょっと真似て～